

C-1 企業レベルPMOの導入成功事例

10:00 事業会社、ソフト開発企業でも総合的マネジメント力が鍵

イデオ・アクト株式会社 代表取締役 葉山 博昭
ALJ ITマネジャー 中村 智之

【セミナーの狙い】

現在の企業の多くは、プロジェクトの成否を個人(PM)に押し付けています。企業におけるITガバナンス・PMOがそのリスクを軽減し、PMOが中心となって、企業としてのPMへと導きます。その実際の事例をお話します。

【セミナーコンテンツ】

①多くの企業のPMOが成功していない原因。②数多くの事業会社でのPMの経験を基に、PMOのゼロからの意識改革。ITガバナンスの礎として、マネージメントへのPMOからの働きかけ、その失敗、成功事例。③ソフトウェア開発企業に於けるリスク管理を中心にしたPMOの成功事例。

【受講をお奨めする方】

各企業でITガバナンスに関連して従事する方。CIO、PMO関係の仕事をしている方。PMOに懐疑的な方。IT関係の改善活動に興味のある方。

【講師略歴】 ●葉山博昭：1948年生まれ、中堅ソフトウェア開発会社でSE、PMを30年近く行い、PMO責任者を最後に起業し、大手金融機関・通信会社のPMO設立支援・運営の指導を行っている。 ●中村智之：1955年生まれ、ソフトウェア開発会社でプログラマー、SEを手始めに外資系銀行、外資系カードブランド会社、産業再生機構配下の企業のCIO、日系証券会社のCIO部を経て、現在、ALJのIT部門でITガバナンスの責任者を務める。

D-1 上機嫌プロジェクト

10:00 オプティミストでいこう

プラネット株式会社
代表取締役 中嶋 秀隆

【セミナーの狙い】

PM技法は、ここ10年ほどの間に日本でも急速に発展を遂げた。今日その対象は、個々のプロジェクトにとどまらず、プログラムやポートフォリオに及んでいる。このセミナーでは、PMについてすこし距離を置いて考えてみたい。特に、われわれがプロジェクトから何を贈られているのか(各自で考える)、われわれの取り組む姿勢、プロジェクトという挑戦の意味に焦点を当てたい。

【セミナーコンテンツ】

はじめに：オプティミストとペシミスト
1. プロジェクト：2つのライフサイクル 2. スポーツの3つの効用
3. プロジェクトからの贈り物 4. プロジェクト：成功と失敗の5態
5. 理由もなく上機嫌 6. オプティミストでいこう 7. 人間にふさわしい苦悩 8. 第1級の知性とは 9. プロジェクトと私生活の調和
* 翻訳作業の現場から まとめ

【受講をお奨めする方】

プロジェクトとご自分のあり方について、すこし距離を置いて考えたいと思われる方。

【講師略歴】京セラ、インテルなど、日米の有力企業に約20年間勤務。その後、PM研修を軸に独立。現在、日本およびアジア地域のビジネスパーソンを対象に、PM技法の研修、コンサルティングを行っている。慶応大学非常勤講師、中央大学大学院客員教授。おもな著書に『PMプロジェクト・マネジメント』『世界一わかりやすいプロジェクト・マネジメント』『プロジェクト・マネジメント 危機からの脱出マニュアル』など。

C-2 Ubiquity and Limits of Innovation

13:45

国際大学 E-Business Management 教授
ジェイ ラジャセクラ PhD

The concept of ubiquity started with the rapid expansion of mobile devices.

The ubiquity of one technology soon became outdated as soon as a new technology appears and adopted into mobile devices.

While development of new technologies and the mobile devices equipped with such technologies needed big investments, one important question is how would the mobile operators and handset makers recover the investments.

This paper looks at this issue on a project management point of view.

講義は英語で行いますが、質問は日本語でも可能です。

【講師略歴】1995年から国際大学にてインフォメーションシステム関連のコースの教鞭をとる。国際大学着任前は米国ニュージャージー州のAT&Tベル研究所に勤務。米国と欧州間とを結ぶ世界初の光ファイバーケーブルTAT-8のコンピュータアルゴリズムのデザインを手がけ同社から特別表彰を受ける。今日のインターネットの隆盛は、彼のアルゴリズムにより 解析された光デジタルケーブルの上成り立つ。3冊の共著と、約30以上の出版物、トップジャーナルに掲載されたテクニカル論文がある。

D-2 戦略的情報商品(インテリジェンス)で市場を掴め

13:45 いつの時代も国際競争力を勝ち抜く企業であるために

日本経営士会・経営コンサルタント
菅原 務

【セミナーの狙い】

市場創造をいかに科学的回路をつくり上げ新商品開発に結びつけるか。
更に、競争力をつけるための営業力・商品力・サービス力をライバルとの比較戦略を科学的に解説し、意思決定者の判断基準へインテリジェンス化の提供について講義。

【セミナーコンテンツ】

菅原著の「CIA流経営価値診断・改善技法」より、情報インテリジェンス手法、C,V,CC戦略思考を活用し、市場創造と新商品企画を実施。

【受講をお奨めする方】

中堅マネージャー、経営企画、商品プロジェクト担当。

【講師略歴】通信工学、経営工学を学びウシオ電機入社。社長秘書、技術マネジメント、社内コンサルタント、営業を経て、経営コンサルタントとして独立。以来、35年多くの企業戦略を手がけ、現在に至る。特に1988年5月、アメリカサンディエゴにおける第12回SICP国際会議においてCIAの情報インテリジェンスに触れ、経営戦略への活用を研究。著書に「CIA流経営価値診断・改善技法」「顧客満足度(CS)の科学的評価法」ほか。

E-1 リスクマネジメント実践法

10:00 リスクマネジメントの成功条件とは何か?

株式会社ピーエム・アラインメント
取締役 中谷 英雄

【セミナーの狙い】

ほとんどの組織とプロジェクトマネージャーは、リスクマネジメントを実施しているが、期待された効果をあげられないというのが実情ではないだろうか。そして、不確実性が存在するプロジェクトでは、目標達成に至らずに、遅れ、予算超過や低いパフォーマンスを引き起こして、失敗していることに気付く。リスクマネジメントが広く使われているにも拘わらずこのような結果になるのは、どこに欠陥があるのか? このセミナーでは、リスクマネジメント成功のための、効果的なマネジメントプロセスの実践方法、個人のリスク態度・企業文化の取組方法をご紹介します。

【セミナーコンテンツ】 1.リスク標準モデルを活用してリスクの本質を理解 2.各プロセスでの留意事項と、本当に使えるツールとは何か? 3.リスクマネジメントの成熟度を向上させる上で個人、企業がやるべきこととは? 4.プログラムリスク、PFへの応用

【受講をお奨めする方】

リスクマネジメントに興味がある方。

【講師略歴】大手ITベンダー、信託銀行のシステム部門を経てシステム開発、プロジェクトマネジメントに従事。その後、現在の会社で、金融機関情報システム部門を対象に、ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、リスクマネジメントのコンサルを務める。PMAJ会員、PMI®日本支部PFM研究会会員、PM学会会員。

F-1 なぜ、失敗を活かせないのか?

10:00 思考技術の限界～だから、その手法は使えない!

株式会社ティオス
代表取締役 落合 敏明

【セミナーの狙い】

失敗プロジェクトが世に溢れている。そして多くの組織が、その失敗を教訓化するための手法・思考技術に取り組んでいる。しかし、どんなに失敗原因を掘り下げて真因を探ったとしても、多くの場合、それ自体にはそもそも何の価値もない。なぜなら、我々は現実のビジネスと向き合っているのであり、あるべきビジネスと向き合っているのではないからだ。理論上の教訓は情報にすぎない。ビジネスの現場でメンバー1人1人の具体的行動に教訓が活かされなければ、当然結果には結びつかない。当講座では、思考技術の限界を認識し、その上で過去を教訓化し、組織・個人の能力を着実に高めるための考え方について解説する。

【セミナーコンテンツ】 思考技術の限界～失敗とどう向き合ってきたか(「なぜ」は5回繰り返せない?) / 手法・技術に足りないものとは / 過去の経験を教訓として活かすためには

【受講をお奨めする方】 プロジェクトに限らず、組織・チームの問題に関心を持つ全ての方。

【講師略歴】マネージャーとして数多くの大規模プロジェクトに参加。コンサルタントとしては、PM関連、組織開発関連を中心に活躍している。大手メーカー、大手ITベンダーなどで数多くの実績をもち、実践を重視したコンサルティング活動で第一線に立ち続けている。(社)全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント/ICMCI認定コンサルタント 著書：「研修が教えないビジネス能力の磨き方」日刊工業新聞社 など。

E-2 ITユーザーPMOマネージャーのあるべき姿

13:45 PMシンポジウム2008PMO設置状況アンケートより

村田経営研究所
代表 村田 正憲

【セミナーの狙い】

PMシンポジウム2008セミナー会場におけるITユーザーPMO設置状況アンケート集計結果のフィードバックと共に、PM、とりわけユーザーPMOマネージャーの役割、ひいてはCIOのあるべき姿を再定義する。

【セミナーコンテンツ】 経済産業省ITスキル標準のITスペシャリスト偏在、プロジェクト・マネージャー不足に鑑みて、ITユーザー企業はPMOを必要としないのか。情報システムユーザースキル標準のビジネス・ストラテジストに代わってISストラテジストがITの付加価値を定義する際に、モノ作り(QCD管理)で手一杯なプロジェクト・マネージャーに、IT・IS戦略目標の達成モニタリング、状況に応じたコントロール(軌道修正)を期待できるのか。内部統制確保の次の情報セキュリティ全体最適化といった「IS戦略実行マネジメント」、「IS戦略の実現に向けて複数の個別案件(プロジェクト)のマネジメント」、「IS戦略実行上のリスクへの対応」等は誰の手に委ねるべきか。

【受講をお奨めする方】 ITユーザー企業におけるプロジェクトマネージャー、ユーザーPMOリーダー、CIO等のIT関連プロジェクト・プログラム管理職、及び主要スタッフ。

【講師略歴】IT関連を中心とした20年近くのマネジメント・コンサルティング経験を有し、海外エンジニアリング部門におけるPMO要員、グローバル企業におけるY2K対応PMOマネージャー、公共機関における業務・システム最適化PMO中核メンバー等のPM関連の要職を歴任。主な著書には「入門 上級システムアドミニストレータ」(リックテレコム社、共著)。(PMAJ、国際CIO学会、等の各種研究活動に参画する傍ら、PMシンポジウム2008セミナー(ITリスク・マネジメント)講師の他、講演・寄稿・論文多数。

F-2 「プロデュース能力」が人と企業を救う!

13:45 大転換期のリーダーに求められる思考と行動とは

株式会社メディアフォーラム
代表取締役 佐々木 直彦

【セミナーの狙い】

「魅力的なビジョンを語り、人を巻き込んで創造と変革を起こせるリーダーが欲しい」今、そう語る経営トップが多い。きびしい不況の時代に、新しい発想で未来をつくりだすプロジェクトが必要になっているのは明らかであり、そうしたプロジェクトこそ、ビジネスパーソン一人ひとりの希望の源でもある。リーダーは、いま、どう思考し、行動すればいいのか。その鍵が「プロデュース」である。プロデュースを起こせる力、すなわちプロデュース能力こそ、リーダーの最大の武器になる。本セミナーは、プロデュース能力について明らかにし、具体的な事例を示しながら、リーダーがプロデュース能力を身につけて、自分自身と周囲をモチベートしながらプロデュースを実現していく方法について明らかにすることを狙いとする。

【セミナーコンテンツ】 1.プロデュース能力とは 2.プロデュース思考 3.行動プロセス 4.ビジョンとリーダーシップ 5.事例研究

【受講をお奨めする方】 経営トップ、マネージャー、プロジェクトリーダー、自ら新しい提案をおこない形にしていきたいと志向するすべてのビジネスパーソン。

【講師略歴】一橋大学社会学部卒業。リクルート、産業能率大学研究員を経て、起業。組織変革、営業戦略、事業開発、人材採用、キャリア創造などの領域でコンサルティング、セミナーを行うほか、様々なプロデュースを行う。著書に「プロデュース能力」『コンサルティング能力』『キャリアの教科書』『大人のプレゼン術』。共著書にJ.ガルブレイス『よい世の中』、W.ベニス/P.ピーダーマン『天才組織をつくる』、B.ナヌス『ビジョン・リーダー』。